

令和6年度 ミニトマト(アンジェレ) 技術情報 No. 3



- 1 生育に応じてかん水量を増やし、追肥を実施しましょう。
- 2 トマトトーンによるホルモン処理を行い、着果を促進させましょう。
- 3 7月以降は灰色かび病、葉かび病、オオタバコガに注意しましょう。
- 4 新規害虫「トマトキバガ」の発生に注意しましょう（発生の疑いがある場合は、普及センターや JA に早急に連絡）。

1 栽培管理

(1) かん水

晴れた日の午前中に行います。かん水開始のタイミングは日の出**2時間後**が目安です。

1回あたりのかん水量は、2本仕立て栽培の場合、**株あたり2～4L**が目安です。夏の高温期は吸水量が増えるため、注意しましょう。

かん水が不足している場合、草勢が弱まり、茎が細くなります。草勢回復のために、かん水量を増やしましょう。

(2) 追肥

草勢を見ながら、**10～14日おきに実施**します。2本仕立ての場合の**標準施肥量**は、**窒素成分量で株あたり2g**です。

収穫開始後は着果負担が大きくなります。標準量でも草勢低下が見られる場合は、追肥の量を増やして草勢維持に努めましょう。

粒状肥料を使用する場合は土壌が乾燥していると肥料成分が溶け出しにくいいため、かん水も合わせて行いましょう。

(3) 温度管理

「アンジェレ」の生育適温は11～25℃です。**30℃以上の高温**は**着果不良**や**着色不良**、**軟化玉**など生理障害の原因になります。

また、曇雨天後の強日射や高温は萎れの原因になります。天気予報を見ながら、早めに**遮光率20～30%程度の遮光資材**を設置しましょう。

(4) 誘引

斜め誘引では、生長点が横ばい～下向きになると草勢が低下しやすいため、**上向き**になるように結束します。また、光が均一に当たるように**茎と茎の間隔が一定**になるように調整しましょう。

(5) 摘花（果）作業

花茎の本数は**2本程度**に揃え、**1花房あたり 20 果**を目安に摘花（果）します。高温期は花茎を 1 本にすると、株の負担が減り、果実品質と草勢が安定します。遅れ花(果)は除去しましょう。

(6) わき芽かき

わき芽は**3～5cmの大きさ**で早めに摘み取ります。開花花房直下のわき芽は、残しておくと株への負荷が大きいため、早めに除去しましょう。

(7) 授粉作業

トマトトーンによるホルモン処理は**確実な着果**と**肥大促進**の効果があります。使用する場合は農薬登録を遵守してください。

表 1 トマトトーンの農薬登録内容

作物名	使用方法	希釈倍数		使用時期	使用目的	本剤の使用回数
ミニトマト	散布	低温時 (20℃以下)	50 倍	開花前 3 日～ 開花後 3 日位	着果促進、 果実の肥大促進、 熟期の促進	1 花につき 1 回
		高温時 (20℃以上)	100 倍			

※令和 6 年 6 月 12 日の農薬登録情報に基づき作成しています。



図1 トマトトーン散布のポイント

(8) 摘葉

収穫が終了した果房より下の葉は**摘葉**します。一斉に摘葉すると草勢低下の原因になるため、数枚ずつ計画的に実施しましょう。

2 病害虫防除

- (1) 7月以降は**灰色かび病、葉かび病、オオタバコガ**の発生に注意しましょう。
- (2) 防除暦を参考に**定期防除**を行いましょう。農薬を使用する際はラベル表示を確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 防除の際は**葉裏、下葉まで十分な量の薬液がかかるように丁寧に散布**します。
- (4) 管理作業で出た葉や果実などの残さは病気の伝染源になります。**作業後は圃場に残さず、処分**しましょう。
- (5) **萎ちょう病などの土壌病害の拡大防止**のために、他の生産者ほ場を訪問する場合には**靴カバーを着用**しましょう。

病害虫名	6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
灰色かび病															
葉かび病															
アブラムシ類															
アザミウマ類															
コナジラミ類															
オオタバコガ															

□ : 発生時期 ■ : 重点防除時期

図2 発生時期の目安（雨よけ栽培の例）

【灰色かび病】

発病条件：梅雨時など曇雨天が続く場合に発生しやすいです。窒素過多などによる過繁茂で発病が助長されます。

対策：ハウス内の換気、古い花弁や葉先枯れの除去



図3 葉の病斑(左)と果実のゴーストスポット(右)

【葉かび病】

発病条件：発病適温 20～25℃、多湿条件で発生しやすいです。肥切れや着果負担で発生が助長されます。

対策：下葉の整理、肥培管理や摘果の徹底による草勢維持

葉かび病抵抗性の TY アンジェレでも発生する場合がありますので、定期的に防除を行ってください。



図4 葉かび病の病斑

【オオタバコガ】

生態：県内では7月中旬から 10 月まで成虫の飛来があります。広食性の害虫で、幼虫は生長点付近の茎葉や果実、花蕾などを加害します。

対策：被害果の片付け、幼虫の処分、防虫ネットの利用

今年は、オオタバコガの発生が例年より早いです。発生初期に防除を行ってください。

オオタバコガが発生した場合は、令和6年度ミニトマト特別散布一覧を参考にして、薬剤散布を実施してください。



図5 オオタバコガ（幼虫）

【トマトキバガ】 県内で発生が確認されています！

生態：ナス科植物を寄主とし、特にトマトに深刻な被害をもたらす恐れのある害虫です。

幼虫は、特に新葉や生長点付近を好み、そこに接する茎や果実に被害が拡大します。

対策：幼虫や卵の耕種的防除のための摘葉及び整枝、防虫ネットの利用、薬剤散布



図6 トマトキバガによる食害

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。

★クマにご注意ください！

各地でクマによる人身被害が多発しています。農作業に当たっては、クマとの不意の遭遇に十分注意してください。